目次

1	桐壺	7	百年ほど前、帝の寵愛を一身に受ける更衣がいました。まわりの女御や
2	帚木	10	源氏は色恋に名高い男に成長していました。妻の左大臣家にめったに
3	空蝉	13	紀伊守の屋敷で空蝉に逃げられた源氏はまんじりともせず夜を明かし
4	夕顔	16	見舞いに行った乳母の隣の家に、女たちが集まっているのが見えました
5	若紫	19	熱病にかかった源氏は、北山の寺で高名な行者の加持祈祷を受けました
6	末摘花	22	逢えばストレスのたまる葵上や六条御息所とちがって、かわいかった
7	紅葉賀	25	朱雀院への行幸が行われますが、出席できない女性たち、特に藤壺の
8	花宴	28	南殿で桜の宴が催されました。同席する藤壺を見たくなくても、
9	葵	31	桐壺帝は譲位し、藤壺と気楽に暮らすようになりました。弘徽殿は
10	賢木	34	斎宮と六条御息所の伊勢行きが近づきました。御息所にとって邪魔な
11	花散里	37	桐壺帝が逝去し、政治的圧力が強まる中、源氏は麗景殿の女御と、
12	須磨	40	今のままでは罰を受けて都からの厳しい追放がある源氏は流刑地と
13	明石	43	雷轟き、波風荒れ狂う中、亡霊が何度も源氏に現れます。二条院の紫上
14	澪標	46	先帝の供養のため、源氏は盛大に法華経の法要を行いました。朱雀帝は
15	蓬生	49	源氏の須磨流謫のあいだ、都では忘れられて苦しむ女性たちがたくさん
16	関屋	52	伊予介は常陸介になり、空蝉とともに任地に去りましたが、任期が
17	絵合	55	藤壺が前斎宮の入内を求めますが、源氏は朱雀院が斎宮に執着している
18	松風	58	二条院の東院落成。まず花散里を住まわせ、東の対には明石の君を、
19	薄雲	61	明石の君は、「ねたみを受けるのではないか」と、大堰から源氏の元に
20	朝顔	64	父の死去に伴い、加茂の斎院(朝顔)は辞職しました。源氏は早速恋文を
21	少女	67	藤壺の一周忌も済み、うららかな加茂の祭のころ、加茂の前斎院に、
22	玉鬘	70	夕顔に仕えていた右近は、その後源氏・紫上に仕えていました。明石の
23	初音	73	紫上の春の町はまるで極楽のような様を呈していました。明石の姫君に
24	胡蝶	76	まだ花盛りのような春の町。他の町の女性たちはそれが見られないのが
25	蛍	79	六条院西の対に住む玉鬘は、父とも思う源氏から突然言い寄られて当惑
26	常夏	82	暑い夏の日、源氏や夕霧が釣殿で涼んでいるところに多くの殿上人が
27	篝火	85	近頃デビューした内大臣の娘近江の君のことで世の中もちきりです。
28	野分	88	六条院の秋好中宮の庭はさまざまな花が植えられ、みごとな庭でした。
29	行幸	91	「玉鬘が自分の娘だと知ったら、内大臣はわたしを婿扱いするだろう」
30	藤袴	94	玉鬘に尚侍としての出仕の話がありました。言い寄ってくる養父は信用
31	真木柱	97	玉鬘と契りを結んだ髭黒大将は喜びを隠せず、早く邸宅に引き取りたい

Genĝi-kajero 5: Juna Violo 若紫

熱病にかかった源氏は、北山の寺で高名な行者の加持祈祷を受けました。坂の下に、僧たちの道場にまじって、こぎれいな家が見え、ある僧都が住んで修行をしているというのですが…

* Genĝi estas 18-jara *

1 Genĝi malsaniĝas

#En iu templo de nordaj montoj loĝas kapabla asketo. En la lasta somero furiozis tiu malsano, kontraŭ kiu multaj homoj magipreĝis sed ne povis haltigi. Tiam li tuj kuracis klientojn multajn kazojn. Plia graviĝo estas evitinda, kaj provu peti lin."

 $Gen \hat{g}i ext{ sendis}$ $mesa \hat{g}iston ext{ por alvoki lin, sed}$ (行者は) respondis:

高齢化 曲げた 背を "Maljuniĝo kurbigis mian dorson, kaj mi ne povas eliri el mia 粗末な家 kabano."

Genĝi diris:

Genĝi-kajero 22: Perla Hararo 玉鬘

玉鬘十帖の開始の帖です。夕顔に仕えていた右近は、その後源氏・紫上に仕えていました。明石の君を見るにつけ、「もしご存命だったら劣らぬもてなしを受けておられただろう」と思います。一方、夕顔の娘を預かっていた乳母は、夫とともに筑紫にいくことに…

* Genĝi estas 34-jara *

1 postsopiro al Lagenario

まだ 忘れた 憧れの Genĝi, post dek sep jaroj, ankoraŭ ne forgesis la sopirindan タ 顔 のような 露 発見 さまざまな virinon Lagenario kia roso. Post eltrovo de multaj virinoj kun diversaj 思い出した karakteroj li bedaŭre rememoris ŝin, kaj postsopiris, se ŝi estus viva. Ŝia 特別 見なした 右近を servistino *Ukon* estis ne tiel speciala, sed li rigardis tiun ŝia postrestaĵo kaj pensis ŝin kara; Ukon jam servis apud li dum multaj jaroj. Kiam Genĝi 仕えさせた 預けるように 右近 rifuĝis al *Suma*, li depone servigis ĉi tiun en nombro de la ĉambelaninoj de Violo, kaj de tiam tiu servis al Violo. La mastrino vidis ŝin 謙虚な bonkaraktera kaj modesta persono. Sed *Ukon* pensis en si:

Genĝi-kajero 42: Princo Nifofu 匂宮

世代が移ります。源氏の死後評判が高いのは、匂宮(明石中宮の子)と、薫(女三宮の子、実は父は柏木)でした。明石中宮の産む子供たちが宮中を占めていきますが、匂宮は二条院で大切に育てられています。この二人の若者の活躍が始まります。

* Kavoru estas 14-jara *

1 famaj estas Nifofu kaj Kavoru

Post la forpaso de Genĝi kvazaŭ lumo neniu en liaj multaj idoj 追いかける povis postkuri lian spuron. Paroli pri la Mikado Rejsej post la abdiko 恐れ多い 三 の 宮 匂=源氏の孫 治めている estos tre estiminde. La Tria Princo Nifofu de la Mikado nun reganta domteneno – tiuj du homoj estis famaj en reputacio, ke ili estas noblaj まちがいなく 抜群の ili havis elstaran belecon, sed ne estis tiel brila respektive. Certe ご立派 気品があり kiel *Genĝi*. Sed ili ŝajnis gratulindaj, noblaj kaj freŝaj surbaze de la 扱った sangaj rilatoj kun Genĝi, kaj tial oni traktis ilin gravaj en la penso, ke ili 優れている estas pli superaj je reputacio kaj potenco ol Genĝi en la prospero. Ili 見えた 魅力的 見方 montriĝis tiel fascinaj de iu vidpunkto. Pro ke Violo tre ame zorgis la

akuz/i 責める、非難する akv/o 水

- akv/o/birdo 水鳥
- akv/o/falo 滝
- akv/o/ŝranko 閼伽棚

al に、へ

- al/doni 付け加える
- al/done おまけに、くわえて、 さらに
- al/donita 追加された
- al/donite 加えられて
- al/fronti 直面する
- al/fronto 直面
- al/gluita 付けられていた
- al/kroĉiĝi とりつく
- al/logi 惹きつける
- al/logo 魅惑
- al/loga 惹きつける、魅力的な、 色めいた
- al/logata 魅了されている
- al/logita 魅了された
- al/logite 惹かれて
- al/logiteco 魅力
- al/monta 上流の
- al/nomo 名づけ
- al/porti 持って来る、運んで来 る
- al/portigi 持ってこさせる、取り寄せる
- al/tiri 引きつける
- al/tira 魅力的な
- al/utai 歌いかける
- al/veni やって来る
- al/veno 訪問
- al/venigi 来させる
- al/voki 呼び寄せる、呼びかける
- al/voko 呼びかけ
- al/vokante 呼び寄せて
- al/vokigi 呼ばせる
- al/o 建物の一画
- ali/a 別の、もう一人
- ali/e あるいは
- ali/figurigo 別の姿(僧)にする こと
- ali/loke 別のところで
- ali/loken 別の場所へ
- ali/maniere 別のやりかたで

- ali/monda 別の世の
- ali/ulo 他の人

almenaŭ せめて、少なくとも alt/e 高く

- alt/devena 高位の出の
- alt/ranga 位が高い、身分が高い
- alt/ranga monaĥo 高位の僧
- alt/rangulo 高官
- alt/statura 背の高い

alud/i ほのめかす、それとなく言

am/o

- am/i
- am/e 愛して
- am/o/serĉanto 恋を求める人
- am/ata 愛される
- am/ato 恋人
- am/atino 愛人、恋人
- am/ita
- am/aĵ/ista 色事師みたいな
- am/inda かわいい
- am/indaĵo 愛すべきもの
- am/afero 色恋沙汰、恋愛関係
- am/aventurema 恋に大胆な
- am/inklini 愛に傾く
- am/inklino 愛する傾向
- am/letero 恋文
- am/okazaĵo 好色なできごと
- am/orema 色っぽい
- am/perado 恋の仲介
- am/petado 懸想
- am/promenadi 愛を求め歩く
- am/promenado 愛の散歩
- am/rilato 恋愛関係
- am/sento 愛情、思い募り
- am/sopiro 恋焦がれ

amas/o 多人数

- amas/e たくさん、どっと
- amas/igi 集める
- amas/iĝi 集まる、立て込む ambaŭ どちらも、双方、二人と

も、両方

- ambaŭa 二人の

ambici/a 野心的な

amik/o 友だち

- amik/a 友だちの
- amik/iĝi 友だちになる

Amitab/o 阿弥陀仏 amuz/o 楽しみ

- amuz/e 楽しく
- amuz/ante 楽しませて
- amuz/aĵo 余興、娯楽

analog/e ことよせて

angor/o 苦悶 angul/o 隅

anim/o 気持ち、魂

ankaŭ 🕹

ankoraŭ まだ

anonc/i 告げる、名乗る

- anonc/ita 知らされていた
- anonc/ite 告げられて

anstataŭ

- anstataŭ/e 代わりに
- anstataŭ/ante 引き換えにして
- anstataŭ/skribo 代筆

antaŭ

- antaŭ/a 前の、例の、昔の
- antaŭ/a edzino 前妻
- antaŭ/a mondo 前世
- antaŭ/e 以前、先に、前のこと

だ、以前と同じく

- antaŭ/e/n 前へ
- antaŭ/krepuske 暁前に
- antaŭ/sciigo 予言
- antaŭ/supozo 予想
- antaŭ/supozi 予想する
- antaŭ/supozita 予想した

antikv/a 昔の、古い antipati/o 反感

- antipati/a 反感を持った
- antipati/e 反感を持って

apart/a 別の、ことさら別の

- apart/e ばらばらに、離れて

aparten/i 属する apart/igante 引き離しながら

- apart/iginte 引き離して
- apart/iĝi 別れる
- apart/iĝo 離ればなれ

apelaci/i 訴える

apenaŭ かろうじて、なんとか、やっと

aper/i 現れる、出現する

- aper/o 出現
- aper/igante 現わして